

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572213734		
法人名	有限会社シャトル		
事業所名	グループホームのぞみ		
所在地	秋田県山本郡三種町鹿渡字東二本柳48-9		
自己評価作成日	令和5年12月1日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の関わりを大切にしており、町民祭への参加・地域の金融機関に全入居者の身体状況に応じた唯一無二の味わい深い作品を展示し、地域の方々やご家族様と親睦を深めている。職員も地域との関わりを重視したサービスを意識しながら家庭的な環境のもとで日常生活が送れるように取り組んでいる。入居者様を人生の先輩として敬い、立地が駅前ということも好条件として活用させていただき、散歩やご近所とのふれあいを通じて安心して過ごせる「笑顔」のあるホームを目指している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和6年1月24日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旬の食材にこだわり、季節を感じる料理の数々は会席料理のように膳を彩り、思わず笑顔がほころぶ食事の時間は心とお腹を満たしてくれる。入居者の生き生きと意欲に満ちた表情は、食が生きる力の源だと語っているよう。20代から60代までの各世代が勤務し、職員もバリエーションに富んでいる。まもなく職員全員が介護福祉士取得者となるエキスパート集団である。レクリエーションワーカー、茶道や踊り等それぞれが卓越した才能をいかんなく発揮しホームを盛り立てている。職員に負けず劣らず入居者の作品は完成度が高い。刺し子のコースターや掛け物、毛糸で編んだクッションカバーやストール等売り物と遜色ない出来映えである。入居者一人ひとりをかけがえのない存在として捉え、意思に基づき、有する能力を最大限活かして、自立した質の高い生活を支援しているお手本のようなホームである。「認知症になっても普通の人、やれば何でもできる」と語った言葉が印象深い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は常に見えるところに掲示していると共に職員のよりどころとなり、ケアへ反映されている。理念に基づいた支援を行うことができているかケアカンファレンスでその都度確認している。	1日の仕事の始まりや認知症ケアに行き詰まった時は、理念に立ち戻るようにしている。理念が職員一人ひとりの心の拠り所になり働く活力にもなっている。毎年職員会議で話し合い、開設からの理念を続けていこうと意見があり、今に至っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町民祭や地域の金融機関に入居者様の作品展示を行い、地域の方々から感動したと電話をいただいた。また、退所されたご家族や地域の方々から新鮮な野菜・くだものをいただきご入居者様の食の楽しみに繋がっている。	地域住民や退居された方の家族、ボランティアの方などから野菜や果物、しめ飾り、花等様々ないただき物があり、日常的に交流している。金融機関に展示している入居者の作品は、卓越した技術が好評で定期的に出展している。地域住民で構成された「グループホームのぞみ協力隊」は避難訓練の参加や外出支援の見守り等の協力があり、力強い助っ人となっている。積極的に地域とつながろうとしていることが確認できた。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	ホームの見学はいつでも受け付け、介護の相談を行っている。地域の金融機関へ各ご入居者様の作品を展示したことでご家族や地域の方々より温かいエールや電話をいただき、認知症になっても普通の暮らしができることを理解してもらおうと共に交流を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症予防のため活動状況の資料の送付にて開催の代替をさせていただいた。ホームでの解決困難な事例については、その都度地域包括支援センターに相談している。	感染対策中で対面での開催はしていないが、状態変化のある入居者の報告やヒヤリハット・事故報告、委員会の活動内容等を報告している。委員メンバーの地域包括支援センターに困ったことを相談したり、意見をもらう等してサービス向上に努めている。町の担当者と相談し、次回是对面での開催を前向きに検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	職員会議の際、社会福祉協議会の職員を招き、権利擁護や成年後見制度の研修を行っている。運営推進会議録の送付だけでなくホームで解決困難なこと等、制度について機会がある毎に行き来し連絡を密に問題解決に取り組んでいる。	社会福祉協議会の職員を講師に権利擁護や成年後見制度の研修を実施している。年に1、2回、山本地域局担当者の訪問があり、暮らしぶり等を報告している。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月職員会議でセンサーの必要性の確認や勉強会を開催し職員の意識を高め身体拘束をしないことへの理解を深め、共有認識を図っている。玄関は日中から午後8時まで施錠せず開放している。利用者には寄り添い、さりげない声かけや見守りをするように心掛けている。	毎月身体拘束適正化委員会を開催している。自分では気づきにくい不適切ケアやスピーチロックをしていないか等を、職員全員で検証している。転倒予防目的のセンサーはどうして必要なのか、解除は出来ないのか等、掘り下げて話し合いを重ねている。毎月議論をすることでケアの再確認ができ、気が引き締まると話しがあった。身体拘束による影響を十分に理解している。	
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の制度を活用されているご入居者様があり、支払いや問題発生時にその都度生活支援員のサポートがある。また、三種町社会福祉協議会のソーシャルワーカーを講師にお招きし、権利擁護に関する制度についての研修を行い、情報や知識を共有できるよう周知徹底をしている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前調査の際に、家族が抱えている心配事や疑問点を把握し、入居時にはご本人・ご家族に充分説明を行い、質問等があればその場で解決するようにしている。納得された上で署名・捺印をいただいている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口は設けており、意見箱を設置し苦情等意見の収集に努めている。面会時にご家族の意見を引き出し、意向を大切にしている。意見や要望は汲み取るよう努め申し送り及び職員会議で話し合っている。	面会時や電話で家族が気軽に意見や要望を話せる機会を作っている。毎月のお便りと10枚ほどの写真を家族へ送り、日常生活の様子を伝えている。長い間疎遠だった家族に何度となく連絡を取り写真を郵送したことで、きれいになったと喜びの声が聞かれた。大切にケアしていることが家族に伝わり、交流できるようになったと聞いた。希薄だった親子を繋ぎ、関係修復できた事例があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	職員会議や日々業務の中で職員は気付いたこと、意見を自由に話せる雰囲気を作っている。出された意見や提案は月例管理者会議で検討し運営に取り入れている。	希望休は月3回までだが、家庭の事情を踏まえ配慮したり、有休取得や勤務形態の要望にも柔軟に対応している。職員会議では職員一人ひとりが発言する機会がある。居室カーテンや洗濯機を新しく購入したのは職員からの提案だった。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており、三種町役場福祉課主催の協議会を通し、意見交換会や町内外の施設との交流する機会を設けお互いに情報交換・質の向上等に努めている。		
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査や家族の情報を基に、心を開いて自分の思いを話せるように傾聴し、安心でき穏やかに過ごせるような信頼関係を築く努力をしている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員一人ひとりがご家族の不安・困りごと・要望等を理解し、希望に沿った支援が提供できるように努力している。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	起床から就寝までの生活の流れは個々人の生活のリズムを基本として画一的なスケジュールを作らないようにし、ホームの日常生活で必要なことはなるべく入居者様自身が行えるよう支援を行っている。それらを通じて入居者様が自分が役に立っていると実感してもらい、自信を持って自分の生活が送れるよう支援している。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話などにより日々の生活の様子や訴え・希望をご家族に報告し、共にご本人のためになる環境作りに協力しあうよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	入居者様が生き生きと暮らすために行きつけの美容室や買い物、町内行事など大切にしてきた馴染みの人たちとの交流や場所との繋がりを継続できるように支援している。ご家族や友人、地域の仲間の皆様がくださる手紙や写真・電話などにより大切な人間関係を維持できるように支援している。	町民祭へ出かけたり、行きつけの美容室が来てくれたり、イオンに行きたいとの希望があり買い物支援をしたりしている。地域の友人が訪ねてきたり、写真を送りたいと携帯電話で兄弟に送信したりと、入居しても今までの生活の延長線上であるように、培ってきた人や社会とのつながりを続けられるよう支援している。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性と意思を大切に、利用者様同士が心置きなく過ごせる人間関係を作る支援に努めている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された利用者様のご家族が自宅の菜園で収穫した野菜を届けて下さったり、高齢家族のケアについて相談を行ったり交流が続いている。		
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努、これが困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や様子、表情等から知り得たことや関わりの中で気づいたことをその都度職員間で共有し、意向に沿った暮らしに繋がるよう思いの把握に努めている。	眠れない時にほうじ茶を飲みながら、色々な話をする中で本音が出たり、病院の受診介助時の車中や診察の待ち時間で思いや希望を聞いたりすることが出来ている。一人ひとりの意向を職員会議で情報共有している。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様一人ひとりの生活歴や今までの暮らしかたを把握して生活環境を整え、安心してその方らしい生活ができるように努めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	担当職員・ご本人・ご家族の意向や心身状況の変化等とらえ、計画作成担当者が集約しアセスメントしている。モニタリングは職員会議の中で行い全職員で情報を共有している。	担当者が本人及び家族の意向を集約し、職員間で意見交換を行い、職員会議でモニタリングを実施している。ケース記録ファイルにケアプランをはさみ、閲覧しやすいよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	入居者様個別の介護記録・バイタルチェック表・排泄確認表等にて身体状況・生活状況を把握し、状況により介護計画の見直しを行い、職員間で共有している。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	駅前で向かいには地域の交流施設があるという立地条件を活かし、運動と気分転換を兼ねて散歩したり、町民祭に自主・合同作品の出展・見学を通じ、地域社会との繋がりや楽しみを持てるように支援している。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族希望のかかりつけ医による往診・受診を継続させている。体調変化などの相談も適宜で入居者様の健康管理を維持している。かかりつけ薬局へは、お薬の飲み合わせ等都度相談している。	希望するかかりつけ医に受診が可能である。職員が通院介助し、受診後は家族へ報告している。かかりつけ薬局は内服薬の配達時に飲み合わせ等説明を受けている。月に1回の訪問看護は体調について実施報告書にコメントをいただいている。歯科の訪問診療も必要に応じて受診可能である。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常勤されていないが月2回の訪問看護を利用している。かかりつけ医・看護師に連絡は取りやすく、ささいな事でも相談し、アドバイスをいただいている。また、同法人のショートステイの看護師にもアドバイスを受けている。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関へ入院時、情報提供書でその情報を伝えている。入院中も面会に行くなどし看護師・相談室より情報交換し退院の流れをスムーズにいくように努めている。また、ご家族の都合がつかない時は職員が全面的にサポートを行っている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在看取りは行っていないが、事業所のできることを説明し、家族の希望に沿いながら可能な支援をしている。医療行為が必要になった場合には同法人のショートステイや近隣の特別養護老人ホームなどの移設に繋げている。	終末期の方針を家族へ説明し、状態に応じてかかりつけ医と相談しながら方向性の確認をしている。医療行為が必要になった場合は対応が困難なため、近隣の施設と連携し転居する等して対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命救急の講習を全職員が受講しており、ご入居者の急変時に対応できるようにしている。緊急連絡網の作成・緊急時マニュアルを状態ごとに分けてすぐ活用できるように目のつく場所に設置している。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いの下、年2回防災避難訓練を実施している。夜間、火災・津波・地震など地域で想定される訓練を行っている。また「グループホームのぞみ協力隊連絡網」を作り、災害時協力していただける体制を築いている。	年2回の防災避難訓練を実施している。「グループホームのぞみ協力隊」として5名の地域住民と協力関係にある。水や食料品等の備蓄や防災持ち出しリュック、発電機を備えている。町指定の避難場所は遠いため、向かいのレストランと提携し避難場所として確保している。緊急時の駆けつけ対応について職員へアンケートを実施している。BCPは完成しているが今後更に見直していく予定。	災害時にかかりつけ医からの処方があるため、緊急時の連絡先や服薬内容がわかるお薬手帳等、防災持ち出しリュックのリストに加えることを期待します。
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、さり気なく優しく「笑顔」で接している。特に排泄支援や入浴支援などで配慮している。生活歴などの個人により異なる習慣を尊重し、プライドを損なうケアにならないようにスタッフ間で情報共有や接遇マナーについて内部研修を設けている。	排泄や入浴の場面は自尊心に配慮した関わりが大切だと認識しており、声かけの音量や言葉遣いに注意している。言葉によって自尊心を傷つけることのないよう、接遇マナーの研修を行い、日々の業務で確認し合う等、職員全員で人格を尊重することに取り組んでいる。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容院や希望があれば衣料品店に購入に出掛けている。衣服の好み、髪型など極力本人の意思を汲み準備している。担当者がしっかりと利用者様の希望を把握するよう努めている。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じた郷土料理で、目でも味わっていただけるような工夫を心掛けている。昔懐かしいおやつなども楽しませている。普段の会話から食べたいものを確認してメニューに取り入れている。また系列事業所の栄養士に相談しながら栄養管理に務めている。	以前、割烹店で働いていた調理師が作る料理は目に鮮やかで彩りもよく、家庭料理のメニューも料亭の味である。デザートや誕生会のケーキも手作りで見事である。入居者がミズの皮むきや食用菊の花びらを取ったり、お菓子作りに加わったりしている。どらやき作りでは割烹着に三角巾の恰好をし、真剣な表情で作っている写真を拝見した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合わせた食事量や味覚に合わせてその日の体調などにも注意しながら必要とされているカロリーは摂取していただくように心掛けている。水分量にも注意している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施し、習慣としていただいている。義歯洗浄や歯科往診など状態や必要性に応じて提供させていただいている。カテキン活用で緑茶でのうがいを行っている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立した排泄を目指し、排泄チェック表や入居者様個々の行動パターンから声かけのタイミングを計るなどの支援している。失敗した場合でもさり気ないケアで自尊心に配慮しながら対応している。	下剤に頼らないよう牛乳やヤクルトを提供し、食物繊維や乳製品を多く摂取できる工夫をしている。興味のあることを話題にしながら、声かけの工夫とさりげない対応でトイレ誘導を行っている。食に興味がある方には手を洗って食事しましょうと洗面所へ、ついでにトイレへと誘導介助をするなどしている。人前での確認やあからさまなトイレ誘導を行わず、自尊心に配慮した素晴らしいケアだと感じた。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄、食事、水分補給を記録から確認し体調の変化や訴えがないかに注意している。また、ヨーグルト等の乳製品や食物繊維などをバランスよく摂取するようにしている。		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回の入浴を実施しているが、体調不良や受診日がある時は入浴日以外にも本人が望まれる入浴、シャワー浴も可能である。また、入浴を好まないご入居者様にはその時々に合わせて言葉掛けを行うなど工夫しながら行っている。	週3回の入浴を実施している。入浴拒否があった場合は無理強いせずに日にちを変え、対応している。その日によって入浴剤を選ぶことができたり、しょうぶ湯や柚子湯の日もあり入浴を楽しめるよう工夫している。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室には冷暖房が完備されており個別に合わせ調整している。食後、眠気が強い時は居室での休息をとられたり、ソファでくつろがれたりされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況を職員全員が把握できるよう薬台帳に目を通し、変化があった時は都度申し送りに記入し確認・理解できるようにしている。かかりつけ医・薬局との連携も取れている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事やおやつレクは楽しみの一つであり、昔を懐かしみながら作ったり、食されている。生活歴を引き出しながら趣味や手伝いなど自分の存在をだしている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	年間行事のほか季節に合わせ外出・散歩・食事会など外出支援をしている。また、地域でのイベントにも参加し交流を図っている。天気の良い日は、駅や近所を散歩し近隣住民との会話で気分転換を図るなど支援している。	大潟村への花見ドライブや森岳の保養所に出かける等、季節ごとに外出をしている。町民祭や金融機関に出展した作品を見に出かけたり、花壇の前のベンチでお茶を楽しんだり、近所を散歩したりと日常的に外出し、出会った地域住民と交流している。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には入居者様の預かり金の管理は行っていないが、ご本人の要求時にはホームの立替で外出時に店に寄ったり、家族面会、久しぶりの孫様面会に小遣いとしてお渡しできる支援はできている。ご本人や家族の承諾を得ている。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール・廊下・玄関には季節ごとの作品を飾り、歩行運動した時に自分の作品や季節感、満足感を感じていただき、歩行時には危険物がないよう配慮している。トイレは3ヶ所あり、スペースも広く取られている。	玄関に入ると入居者の描いた絵や作品が所狭しと飾られており、季節の花とともに彩り豊かで温かい雰囲気がある。廊下に飾られた貼り絵は、入居者が分担して作り上げた自信作である。季節柄、温湿度計や加湿器を設置し、環境を整えている。調査当日は編み物をしたり、広告紙を切ったりと各々好きな活動をし、自由に居心地良く過ごしている姿があった。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士が自由に談笑されたり、個人の様々な趣味活動の要望に応えられるよう快適な環境を整えている。時には各居室訪問され会話を楽しまれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が愛用されている慣れ親しんだ家具・寝具・食器・写真等をご家族から教えていただき持ち込み、ご本人にとって心地よい居室となるよう支援している。一人ひとり安心して落ち着いて暮らせるように居室作りがされている。	遺影に水やお酒をお供えしたり、家族の写真を飾ったり、馴染みのタンスやベッドを持ち込んだりして、安らぎが得られるような居室となっている。入居時にベッドの向きを変えたり、電気の紐を長くしてほしいとの希望に応じたりして、居心地良く過ごせるように支援している。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリー仕様、手すりを設置し居室前のネームやトイレ表示を分かりやすくする事で入居者様が安心安全に過ごせるような環境作りを行っている。安全確認、見守りのもとでできることを行っていただき自立支援をしている。		